

2016年2月までのその他の活動

子どもクリスマス



恒例の子どもクリスマスが12月12日に開催されました。毎年楽しみにしている工作は、今回はアルミ皿を使ったリース作りとフェルトを使ったツリー作りに挑戦しました。みんなうまくできたかな。いつものように最後にはサンタさんが登場。みんな素敵なプレゼントをもらって、笑顔いっぱいでした。

第3回 日韓国際交流会



2016年1月27日の夜、都内の大学や日本語学校で学ぶ韓国人留学生と、韓国に関心を持つ日本人の学生・青年、合計21名が集まり、第3回日韓国際交流会を開催しました。前回同様プログラムの企画及び進行は、YMCAの大学生ユーススタッフが担当しました。

グループごとに分かれ、自己紹介タイムで仲良くなった後はゲーム大会で盛り上がり、楽しかったという声が多く聞かれました。

昨年は、日韓外交正常化50年という節目の年であったにもかかわらず、両国の関係は残念ながら未だ良好とはいき切れません。しかし、日韓の若い世代が仲を深めることこそが、「和解と共生」の第一歩へと繋がっていくのではないのでしょうか。在日本韓国YMCAは、今から100年前に朝鮮3・1独立運動の導火線となった、「2・8独立宣言」が行われた場所ですが、現在では日韓の青年たちが出会い、交流する場所として用いられています。

私自身も含め、交流会で得た友情を、これから大切に育んでいきたいと思えます。(日韓交流会リーダー 柿沼里帆)

東京センテニアルYサービスクラブ 10周年記念祝会



日頃から在日本韓国YMCAの働きを支えてくださっている東京センテニアルYサービスクラブ(ワイズメンズクラブ)が設立10周年を迎え、2月22日(土)にYMCA9階ホールで10周年記念祝会を開催しました。IBC(国際兄弟クラブ)である韓国の金海クラブをはじめとする国内外のワイズメンズクラブから約40名が集まり、10周年の歩みを振り返りつつ、今後の発展への大いなる期待を語り合いました。

ピンクシャッター2016



ピンクのシャツを着ていたためにいじめられた友だちの姿を見て、多くの仲間たちがピンクのシャツを着ていじめに反対したという2007年にカナダで起きた出来事がきっかけとなり、今では、毎年2月の第4水曜日が、いじめに反対するピンクシャッターとして知られるようになってきました。今年、日本のYMCAでは全国的にこのピンクシャッターを推進することを決めました。私たちが在日本韓国YMCAでも、2月24日に日本語学校の学生たちやスタッフがピンク色のものを身につけて写真を撮り、あらゆるいじめに反対し、社会からいじめをなくそうという思いを確認し合いました。

在日本韓国YMCA 創立110周年記念フォーラム

えがきだせ! あなたの想い! 海外にルーツをもつユースから日本のユースへのメッセージ・コンテスト 参加者募集中!

開催日時: 4月16日(土)11時~14時
対象: 日本以外の国・地域にルーツを持つ35歳までのユース(性別、国籍、宗教等の制限はありません)

募集部門: 個人部門(8名) 団体部門(1組当たり2~20名、計8組)

内容: 日本社会で暮らしている海外にルーツを持つユースから、同世代の日本のユースに伝えたい思いをスピーチ、歌、パフォーマンス等で自由に表現してください。

制限時間: 1人または1組あたり、準備を含めて4分以内。
表彰: 入賞者には豪華賞品、全ての参加者には参加賞が贈呈されます。

締切: 2016年3月31日(木) ※申込が定員になり次第、締め切ります。

申込、問合せはYMCAの担当妻乗青(ぺえびょんぢゅ)まで。

今後の予定 2016年3月~5月

【在日本韓国YMCA】
4/25(月) 創立110周年記念式

【東京韓国YMCA】
3/18(金) 日本語学校卒業・修了式
3/26(土) 韓国語講座打ち上げ
4/2(土) 韓国伝統楽器・舞踊無料体験講習会
4/12(火) 日本語学校入学・始業式
4/16(土) 創立110周年記念フォーラム「えがきだせ! あなたの想い」
4/19(火) 2015年度第4回理事会
5/9(月) 第245回教界指導者朝餐祈禱会
5/21(土) 定期会員総会、第8回オリープ平和映画祭

【関西韓国YMCA】
3/11(金) 第123回YMCA教界指導者早天祈禱会
4/12(火) 2015年度第4回理事会
5/13(金) 第124回YMCA教界指導者早天祈禱会
5/28(土) 定期会員総会・2016年度第1回理事会

YMCA東京日本語学校 学生募集中

韓国語講座 申込募集中

【編集後記】
●4月に110周年を迎え、「かけはし」もリニューアルを予定しています。どうぞ、お楽しみに。(た)
●そろそろエイプリルフール。罪が無くインパクトのある法螺を吹かねばなりません。(白)

KAKEHASHI かけはし 2016 March. vol.22
発行人: 金秀男 発行: 在日本韓国YMCAアジア青少年センター
〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-5-5
TEL: 03-3233-0611 FAX: 03-3233-0633
http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/ ayc@ymcajapan.org



『かけはし』次号は2016年6月発行予定です。
Twitter: @zainichiyymca Facebook: Korean YMCA in Japan
より良い紙面づくりのために、ご意見・ご感想等お寄せください。

在日本韓国YMCA アジア青少年センター
Korean YMCA in Japan Asia Youth Center



かけはし

第6回 日中韓YMCA平和フォーラムに参加して

高 彰希(立教大学 YMCA 3年)



日中韓3ヶ国から集った参加者たち

2015年12月19日(土)~23日(火)、中国・南京にて日中韓YMCA 平和フォーラムが行われました。2004年から始まった平和フォーラムも今回で6回目をむかえました。これまで平和構築プログラムやユースが主体となるプログラムについて議論されてきましたが、今回の平和フォーラムは、南京大虐殺の現場として知られる南京で行われ、ほかに日中韓の交流の史跡である揚州の鑑真記念館や崔致遠記念館も訪ねました。その中で歴史を直視しながらも交流を通して友情を深め、未来に向けて何がで

きるかを議論しました。私自身、在日コリアン3世として、また日本のYMCAのユース代表として、広い視野から歴史認識と平和構築について考えたいと思い、この平和フォーラムに参加しました。

初めて足を踏み入れた中国の地では毎日驚きの連続でした。広大な土地、人の多さ、いたるところに漢字だけで書かれた看板、早口で怒ったように(?)しゃべる駅員、毎晩ふるまわれる豪華料理。そんな普段とは違った環境の中で気付いた「歴史認識」と「平和のあり方」について簡単にまとめたいと思います。

まず始めに歴史認識について。二日目に訪ねた南京大虐殺記念館では敷地に入ったあたりから、なにかゾワっとするものを感じました。それはそこで犠牲になった人たちの魂のようなものなのか、あるいは日本から来た私たちに對する周囲の視線なのか。戦前の日本の侵略戦争に関する知識は一通り心得ていて残酷な描写も度々見てきましたが、展示ブースには心が締め付けられるような悲惨な内容がたくさんありました。日本軍兵士たちは南京市民を筆舌に尽くしがたい殺害方法で一掃しました。また、当時の南京の人々は日々空襲におびえ、雨が降ると空爆が行われないうえに良い天気(下雨=好天気)とさえ言ったそうです。もちろん被害者側が過大にアピールしている可能性もあり得るでしょうが、これを虐殺と呼ぶ、さらに侵略はなかったなどと歴史を修正する動きはあってはならないと思います。 【2面へ続く】

聖書に聴く

第22回 金迅野 牧師(キム・シンヤ/在日大韓基督教会 横須賀教会)

モーセは血を取り、民に振りかけて言った。「見よ、これは主がこれらの言葉に基づいてあなたたちと結ばれた契約の血である。」(出エジプト記 24章8節)

これは罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。(マタイによる福音書 26章28節)

過越の日、主は、出エジプトの民を「血」の印によって見分けられ、解放の門を開かれました。そして、シナイ山で捧げ物の雄牛の血をもって民との間に堅い契約が交わされました。その消息が旧約聖書に刻まれています。

しかし解放された民は、幾度、この契約を裏切り、主から離反しようとしたのでしょうか。幾度となく差し出された主の救いの手を、人間はそれと知らず拒否し、あるいはそれと知りつつ払いのけてしまったことか。わたしたちは、そのことを、現代という高見に立って笑えるのでしょうか。民の数々の離反にもかかわらず、それでも主は予言者の口を通して、「わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼ら

の心にそれを記す」(エレミヤ書31章33節)と語られました。この声は、時間を越えて、わたしたちの心をいま打ち抜いてはいませんか。

最後の過越の日の夜、イエスは、「言葉」を通して語られ続けた救済の歴史に横たわる深い意味を、静かにかみしめておられたのではないのでしょうか。そして、静かに、神の子がいま、最後の契約として、主から離反し続ける人間の魂に、契約が深く刻印され、二度と忘却されることがないように、自ら血を流すことを語られたのではないのでしょうか。主がそこまでして人間にかけられる希望とはどのようなのでしょうか。

最後の過越の日を迎えるまでに、イエスが歩まれた足跡の一つひとつを、瞳を閉じて、耳をすまして、いま、想い起こしたいと思えます。あの日、私たちに与えられた、民との関わりのなかで語られた一つひとつの言葉の深さを、心を尽くして、いま、噛みしめたいと思えます。イエスが自らの民の歴史を想起したように…。わたしたちがほんとうの希望を抱けるとしたら、それは「わたしたちの希望」ではなく、「主の希望」であることを、わたしたちが想い起こせよう…。復活の命によって、少しでも主との契約にかなう存在として、「希望」のうちに、新たに生き直すことができるわたしたちでありますように…。

【1面から続く】

次に平和のあり方について。四日目の文化体験の時間はユースだけで話しあい、交流しました。日本の準備した折り鶴や韓国のキャンドルセレモニー、中国の伝統的なゲームなど、楽しい時間を過ごす中でユース全体の一体感が生まれた気がしました。これがまさに日本のユースがアクションプランとして発表した「Make more Friends」が平和につながっていく瞬間なのではないかと思いました。お互いに歴史認識や相互理解が違うなかでも分かち合うことができます。こんな簡単なことで平和が実現できるとは考えにくいですが、少なくとも私たちができる草の根レベルの活動として平和へのスタートラインに立つことはできると確信しました。

今回の平和フォーラムは2年後、韓国・光州で行われることが決まりました。そこに私たち日本のユースは、今までの良い伝統を「keep」しながら、今までにはないユースらしさを発揮できるように「change」していかなければならないと考えました。そのためには、日中韓のユースが積極的に参画しユース同士をエンパワメント

トしていく必要があります。私もその一員として関わってきたいです。

最後に、このような貴重な時間を準備して下さった日本YMCA 同盟や都市YMCAのスタッフ、送り出してくれた学生YMCAのスタッフに感謝致します。謝謝。



高彰希さん(中)は3カ国語による開会礼拝(クリスマス礼拝)で韓国語の司式を担当してくれました。

才門勇介(「かけはし」編集委員)

連載 東京の中の韓国を巡る【最終回】

連載「東京の中の韓国を巡る」は、次号の110周年記念紙面リニューアルのため、12回目の今回をもって最終回となります。

最終回ということで、この企画の振り返りを通して、110周年記念に向けて思うことを綴りたいと思います。この連載の取材は、その場所を見に行き紹介する!というコンセプトで始まったのですが、結果的には日本と韓国のルーツを探る旅の旅になりました。

私自身、日本人の父と在日韓国人の母を持つ、いわゆるダブルなので、日本の中にある韓国を巡る旅はまさしく、個人的には、私の中に流れているはずの韓国のルーツを探しに行く(に気づかされる)旅でもありました。それぞれの場所、社会には歴史があり、その歴史が今を作り上げている。これは、人そのものにも当てはまるような気がします。ルーツを意識しないままに、今の自分のアイデンティティーは築けない。大げさに言えば、そんなことを感じさせられる旅となりました。

現代の日本は長らく個のない時代と言われ、アイデンティティーを持つことが重要だと言われながらも持ち方がわからないという社会なのではないでしょうか。そんな中で、最近ネット等でよく目にするのは、必死にアイデンティティーという言葉を使いながらも、深く考える訳でなく、物知り顔で風潮に流され、ヘイトやライクを叫ぶ光景です。それは昨今の日韓関係の中においても、しばしば見られる風潮となりつつあります。それがとても軽く(少なくとも私にはそう感じられませんが)、極端になり過ぎるきらいがあるのは、その主張の中に、彼らのルーツに対する真摯な向き合いがないところに理由があるような気がします。

本来、自分のルーツについて真剣に考え、自分のアイデンティティーの基礎とすることは、互いに認めあうこと、共生することにつながります。なぜなら、そこには他人のルーツに対する尊重も生まれるはずだからです。実はこの辺に今の日韓の問題の大部分が集約されているのかもしれない。そんな中で、ある意味、現代の韓国人のアイデンティティーの成形の礎となった2.8独立宣言の舞台となり、その後も多文化の共生をスローガンに活動してきた在日韓国YMCAは、それらを行うことにこそ存在意義があり、また今が再度その力を発揮すべき時期なのかも知れません。

110周年を機に、再度、ルーツを知る場所に、そして多文化共生の中心に。そう期待し、また、これからも、そうした活動の一助を担えればと思います。最後になりましたが、長い間、連載「東京の中の韓国を巡る」の駄文にお付き合いくださいありがとうございました!



これまでの連載で訪ねた場所(一部)
左から、高麗神社、高麗博物館、日本民藝館、韓国文化院、チェッコリ

2015年12月～2016年2月のプログラム 東京韓国YMCA 関西韓国YMCA

2・8独立宣言97周年記念行事

【東京】 2・8独立宣言 第97周年記念式

日本による朝鮮植民地統治時代において最大の民族独立運動である3.1独立運動の導火線となったことで知られる、東京留学生による「2.8独立宣言」が東京朝鮮基督教青年会(現在の在日韓国YMCA)会館で宣布された歴史を思い起こし、正義と平和の実現のために命をかけて立ち上がった当時の青年たちの思いを心に刻みなおすために、YMCAでは韓国政府(国家報勲処)の支援を受け、毎年2月に「2・8独立宣言記念式」を開催しています。今年も、2月8日に、柳興洙駐日大使、金周容国家報勲処報勲宣揚局長、李鍾贊光復会顧問、李洛淵全羅南道知事をはじめとする内外の貴賓にお集まりいただいた中、第97周年記念式が行われました。来賓による式辞、留学生による宣言文朗読のほか、恒例となった、東京韓国学校の高校生たちの合唱団カンタービレとオモニ合唱団による素晴らしい合唱が、式典に花を添えました。韓日関係をはじめ、世界中が様々な困難な課題に直面している今こそ、勇気と正義の思いにあふれる2・8宣言の精神を思い起こし、希望に満ちた新しい時代を切り開いていこうという多くの出席者の思いが強く感じられる時間となりました。



柳興洙駐日大使 東京韓国学校合唱団

【関西】 2・8独立宣言 第97周年記念礼拝

2月3日(水)午後7時より、「2.8独立宣言97周年記念礼拝」が開催されました。この集会は、在日大韓基督教会関西地方会と西部地方会の後援のもと、毎年各教会を巡回しながら開催されているもので、今年は大阪市生野区の在日コリアン集住地に位置する日本基督教団大阪聖和教会が会場でした。「途方に暮れても失望せず」と題した鄭寿天名誉牧師による説教は、ご自身の経験をもとに恨(ハン)を負った者が共に生きる者へと変えられることの困難さと、十字架の主を仰ぎ見るしかない弱い存在であり、だからこそ逆説的に共に生きよと促されるものでした。説教に続き、映画『2.8独立宣言』を共に鑑賞、崇高な精神を掲げ、命を懸けて立ち上がった青年学徒に思いをはせるときとなりました。礼拝後は、大阪聖和教会で準備して下さった食卓を囲みながら、出席者紹介の後、懇談交流する時が持たれました。戦後70年を経ても、ヘイトスピーチに象徴されるように在日コリアンへの差別がなくなるどころか、社会的弱者が益々隅っこに追いやられていく状況が口々に語られ、歴史に学び、今こそキリスト者としてなすべき働きを共に果たしていこうとの思いを分かち合うことができました。聖和共働福祉会の働きを覚えて下さげられた献金が伝達され、大阪聖和教会老田信牧師の祈りで閉会となりました。

ソウルY / 在日韓国Y 理事交流プログラム

東日本大震災以降、中断していた『ソウルY / 在日韓国Y 理事交流プログラム』が、5年ぶりに実施されました。12月1日午前便で、ソウルから20名が3泊4日の日程で来日、午後から2.8独立運動に関わる都内歴史探訪を行い、浅草寺を観光した後、名物フグ料理で歓迎夕食会を開催しました。翌日は朝から、関西韓国Yからの4名が現地で合流して、総勢34名が一堂に会する一泊二日の軽井沢研修バス旅行に出かけました。ホテル到着後すぐに、副理事長の鄭順葉牧師による力強いメッセージと鄭寿天牧師の祝福で開会礼拝をささげた後、引き続き在日韓国YMCA創立110周年記念事業計画の概略報告を受けて、今後のビジョンを共に分かち合う時を持ちました。それぞれの部屋で旅装を解いた後再び集合、石の教会・内村鑑三記念堂見学へと出発、静寂に包まれた闇の中を進むうち現れる姿、その優しい光に包まれた幻想的な景観を堪能し、森の中での温泉浴を楽しんだのちホテルに戻りました。お待ちかねの晩餐会では、心づくしの豪華な料理に舌鼓を打ち、愉快的参加者紹介と歓談をかわしながら、両Y理事間の親睦を深め、協力関係強化を確認することができました。翌朝、ソウルY副理事長の李起烈牧師の説教で朝の敬虔会を守り、健康に配慮された盛りだくさんの朝食を共に味わうことができました。荷物をまとめバスに乗車、軽井沢最古のショー記念礼拝堂を始め、日本に渡ってきた初代宣教師たちの今に続く足跡をたどり、旧軽井沢銀座の散策は、YMCA ミッションの原点を振り返る時となりました。それから名残惜しくも、現地合流の参加者に別れを告げ帰途につきました。才門正男理事ご夫妻の特別のご配慮によって実現した今回の軽井沢旅行、すばらしいホテル、豊かな温泉と特別料理で、心身ともに癒された良き交わりの機会となったことを感謝します。次回は2017年度、韓国での開催が楽しみです。

東京韓国YMCAの活動

2015年 YMCAクリスマスの夕べ

イエス・キリストの誕生を皆で祝う場として、恒例の「YMCAクリスマスの夕べ」が今年度も12月13日に行われました。山梨中央教会の梁昌熙(ヤン・チャンヒ)牧師は、マタイによる福音書1章21-23節をもとに「インマヌエル」のタイトルで、救い主としてこの世に誕生したイエス・キリストについて力強いメッセージを伝えてくださいました。今回は、各教会による讚美や劇などの出し物が会場を盛り上げました。参加して下さった山梨中央教会、谷中キリスト教会、東京緑洲教会、東京希望キリスト教会、そして八街グレイス教会の皆様にご挨拶申し上げます。クリスマスの夕べでの献金は、国際・地域社会奉仕活動のために用いられます。会場では、本会のスタッフによる難民支援プログラムのスライド上映や説明も行われ、参加者への理解を深める場となりました。